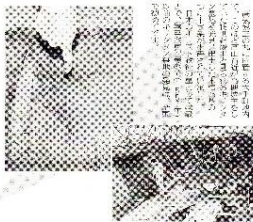


高山右近とミゼルコルディア

2015.1.15 岡本 稔

高山右近は、21才から33才までの12年間を高槻城主として過ごした後、秀吉から明石(船上城)へ移封され、2年後の宣教師追放令によって彼はすべてを剥奪されている。この時「信仰をとるか領地をとるか」と問われ、ただちに「信仰」の道を選んだことが、多くの日本人にとって共感を呼び、現在も多くの人の心に受け継がれている。だが、高槻城主時代の彼の慈悲の行為が、わずか17年前の(1998年)「キリシタン墓地」の発掘により、当時宣教師らの書簡で伝えられていた事が事実であると具体的に証明された。

最古のキリシタン墓
高槻城跡で発見



① キリシタン墓地の発見

発掘を担当した文化財埋蔵文化財調査センター技術吏員高橋公一氏の話によっても、江戸時代に井戸が掘られており、その位置が少しずれて木棺の上蓋の十字が破壊されていれば、今日のキリシタン墓が陽の目を見ることもなかったかもしれないという奇跡的なものでした。

発掘調査 A地区 1998年5月14日～6月17日 共同住宅建設

B地区 1998年7月23日～8月28日 高槻商工会議所

当初、30～50cm程掘り下げて、何も出ないために更に地層の違う約1.8mまで掘り下げたところで土杭が現れ木棺が出土して、墓地であることが確認されている。最終的に27基発見されている。このように時代を特定でき、しかも完全な形で墓地が発見されることは極めて稀で、考古学上からも貴重なものとされている。キリシタンのものであるがために「盛り土」をされたからでしょうか、逆に荒らされることもなく当時の生活の様子がわかり、右近親子が高槻城主時代に行なったミゼルコルディアの行為の証明となる「第一級史料」となっている。墓碑は既にないが、おそらく千提寺や下音羽にある「墓碑」と同じようなものがあつたと推定される。



② 高槻教会の建設

1574年に建設される。(日本史45章)「(右近の父)飛騨守は、領内で教会を建てるのに最もふさわしく格好の場所を求めた。そこは当初、仏僧たちの一寺(宮)が建っていた所であった。彼はそこに三百クルザード以上を費やして木造の大教会を建てた」と記している。

続けて「彼は教会の周囲に、非常に大きく広い空地を設け、さらにそのぐりに美しい花が咲く緑樹を植えたが、それは復活祭の行列の際、緑色を呈して、行列を行うのによく調和させんがためであつ

た。地所の一角に、三つの階段がついた大きい十字架を建て、その周囲に種々の草花を植え、十字架の背後に遠くから水を引き信徒に喜んでもらうために池を造り、魚を泳がせた」とある。・・父ダリオ自身も教会が完成し、初ミサがあげられた時、彼は床にひれ伏し、涙でほほを濡らしながら、「今や我が切なる望みは地上で果たされた」と言った。



③ ロザリオの発見

2基の木棺 (N8 と S6)からロザリオの玉が 95 玉と 4 玉発見されている。(日本史 45 章)「また彼(ダリオ)はキリシタン達のためにコンタツを作成しようとして、わざわざ都から一人の優れた異教徒のろくろし轆轤師を呼ばせ、高槻に住まわせて生活の面倒を見ていたが、その人はダリオから多くの教えを説かれ、ついにその後、妻子ともどもキリシタンになるに到った」との記述があり、当時、仏教のじゆず数珠玉の製造技術を取り入れてロザリオを造らせていたことが間違いないものとなっている。

父ダリオは多くの受洗者に老幼貴賤を問わず代父となり、十字架や子メダイを彼等に与えているが、同様にロザリオも与えていたと思われる。



④ 共同体作りと木棺の制作と埋葬

「また彼はそこで毎年、いろいろな事の世話にあたる四人の執事を任命し、彼等は異教徒改宗のことにかかわ係ったり、貧者を訪問したり、告白や死者の葬儀のことで司祭たちに知らせたり、各地からそこに来た客たちをもてなしたりした。」と書かれ、自らな籠を垂れて彼らを導いた。

「日本にはこのような貧しい兵士や見捨てられた人々が亡くなると、ひじり聖と称せられる人たちが彼らを運んで行って火葬にする習慣がある。キリシタン宗門が高槻で繁栄し始めたころ、2人の貧民が死亡した。右近親子は、さっそく我らヨーロッパのミゼルコルディアで作るような一台の棺を制作させ、真中に白い十字架を付したくろどんす黒緞子のかんぶ棺布で覆い、貴賤男女全員のキリシタンを招集し、死者たちを葬るため、ろうそく蠟燭を灯したちようちん提灯を持参させた。ダリオとその城主である息子右近殿は、新たなキリシタンのもとで棺を担う敬虔な行為が習慣となるように、この蔑視されているいや賤しいひじり聖の役を自ら引きうけた。以後貴人たちもこうした埋葬にあたって助けることが慣習として留まるに到った。」と。(日本史 45) 共同体の執事が中心になって木棺を制作した可能性も考えられる。

発掘された木棺は、幼児用は埋葬者の大きさを考慮せずに造られていて、成人用は亡くなられた方の身長に合わせて造られたとみられている。木材も様々なさまざま転用材を使い、技量的には未熟な人が創ったと思われる。

キリシタン墓地は埋め戻されたが、キリシタン木棺と人骨等は、高槻教育委員会が大切に保管されています。

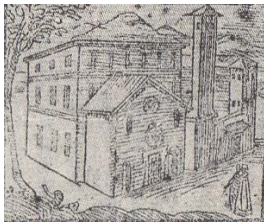


⑤ キリシタン墓地の建設

それ以後、彼らの間では、こうした埋葬にあたって助け合うことが慣習となった。「(右近の父)ダリオは埋葬のために城外に一大墓地を設け、さっそく死者たちの頭上にそれぞれ木製の十字架を置かせ、さらにその同じ墓地に、一基の大きくかつ非常に美しい十字架を立てさせた。」と記述しており、まさに事実であることが証明された。

⑥ その他・寡婦や孤児及び兵士に対して

また貧しい者には衣服やあらゆる食物を与え、彼らが望むままに幾日も幾日も扶養した。冬、寒気が厳しかった折、数回、一着の平素の着物ともう一つの新しい着物を着て、場内を見回り、1人の貧しい兵士に出会い、彼が貧困で寒さに困っているのを見ると、彼の家新しい着物を置いて立ち去った。ダリオは妻マリアに「もしデウス様が、お前の靈魂やお前の子供たちに慈悲を賜るように望むなら、慈悲の業に励むがよい。またもし施しに与えるものが何ひとつないならば、その時は屋根瓦を剥がしそれを売り、その代金で貧しい人たちに着物を着させるがよい」と答えている。



⑦ 安土セナリオの高槻移転

本能寺の変の後、右近は「安土セナリオ」を高槻に移させている。(日本史1章)「オルガンチノ神父は、安土にあったセナリオを、最善を尽くして都の教会と新しい修道院に收容した。だがその場所が狭かったため、司祭はこの一件をユスト右近殿ならびにその父ダリオに打ち明けたところ、一同は種々の観点から、彼らがいる高槻以上に適した場所を見出すことは不可能であるということで意見の一致を見た。オルガンチノ神父は、ユスト右近から毎年少年たちの養育補助金が贈られていた。実質的に安土の時代からずっと右近が経済的支援を行っていた。

⑧ 当時の高槻領の信徒数

1581年(天正9)高山右近29才の時にはバリアーノ巡察師を案内して、領内の20程の教会を廻り「当時、領民25,000人のうち18,000人がキリシタンであった。」と記されている。70%を超える信徒がいた事になる。以前訪ねた右近ゆかりの寺で「右近の時代は特に奥地の方で信徒が多かったと聞いている。当時の庶民の生活は大変に厳しいもので、彼らの葬儀に仏僧が顔を出すことはなく、右近親子の棺を担ぐ行為に特別な慈悲の心を見て、信仰の火がついたのでしょう」と言われたご住職の話が大変印象に残っている。「キリシタン墓地」の発見は、高山右近親子のミゼルコルディアの行為がまさしく「事実」であったことを証明するものとして大変に貴重なものである。 おわり